

いい顔、ありがとう

どろんこ遊び、(中央保育園/8月6日)

●この広報紙にあなたが写ってましたら、総務課(企画係)☎04-11-11内線(二二五)へご連絡ください。写真をさしあげます。



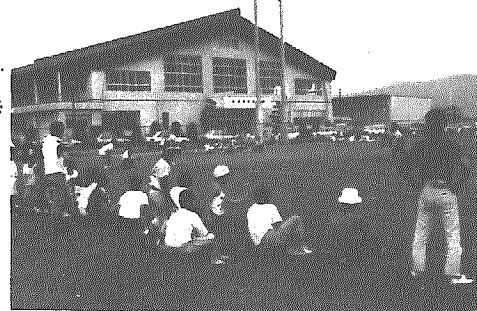
水と土はともだち！ ぼくたちの

大人気のどろんこ遊び——中央保育園



「ヒヤ、つめたいなノでも楽しかった」と水遊びをする園児たち。先月六日、中央保育園では子供たちに大人気の「どろんこあそび」をしました。男の子も女の子もパンツ一枚の軽装!?で約一時間、園庭のあちらこちらで自由にのびのびと泥あそび。砂場をまるでプールのようにして遊ぶ子や園庭の中央でお互いの顔や体めがけて泥を投げ合うグループなど、「水と土はぼくたちの友達だ」と言わんばかりにその遊びの一つ一つが新鮮で楽しいようです。よく観察するなどの遊びも工夫が凝らされていて、泥を十分に生かした楽しい遊びを満喫していたようです。

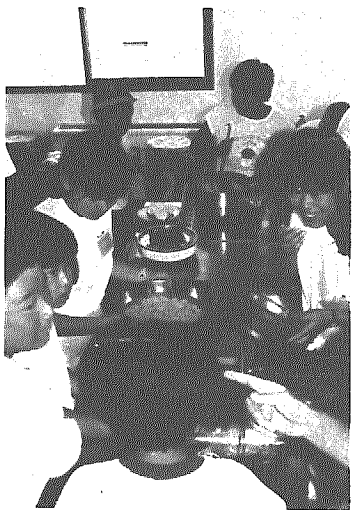
親子で真夏のプレイボール



先月23日、村民野球場と岩室中学校グラウンドで行われた親子ソフトボール大会。夏休み最後!の親子大会とあってか、21チーム400人あまりの親子が参加。真夏の熱戦を展開しました。結果は1位が和納12区親子ソフト会。以下2位-和納1区A、3位-間瀬、高橋、岩室Bチームでした。なお、敢闘賞は橋本子供会に贈られました。

今日はわたしたちが先生よ

高校生ボランティアスクール



先月三日、公民館で開かれた県の高中生ボランティアスクール。今年は岩室子ども会など三地区の子供たち百人が参加。高校生の指導でお昼のカレー作りやレクダンス、ゲームで楽しい交流をしました。



「海の仕事っていうのは、地味で目立たないけど、ロマンというか男の仕事だ」というところに魅力を感じますね」と語る、幸村六郎さん(和納十一区・53歳)日本海内航汽船船長。さる七月二十日の「海の記念日」に船長としては県内でただ一人、運輸大臣表彰を受けました。乗船実歴三十五年以上。もちろん無事故・無違反の功績が認められたものです。「わたしの乗船している船は越佐航路——そうす新潟——佐渡間を結ぶ船で、佐渡へ日刊紙やLPガス、酒やビールに菓子などあらゆる生活必需品を輸送している船です。それだけに定時性と安定した航行が要求されています」と話す幸村さんは現在、和納十一区に居を構えてい

このひと

基本は人の和づくり

ますが、出身地は本村の間瀬。小さいときから海に親しんでいた関係もあって昭和二十四年、学校を終えるとともに船員を志し、北海道へ。そこで五年間、漁船に乗ったあと、昭和三十年からこの新潟——佐渡間を航行する内航汽船に乗り組みました。「船長という仕事はそりや大変ですよ。わたしの船にはいま、十人の船員が乗っていますが、その人たちの命は全部わたしに任されていると言っても過言ではありません。もし、わたしの誤判断や指揮ミスでもあったら、部下はもちろん、その家族も含め百人以上の人たちの命をなせる運命にあるのですから……。だから事故は絶対に起こさない、という強い信念で安全航海をしています」と船長の覚悟を語る一方、「また、船はいったん出航すると世間とは隔離された世界に入ります。通常の環境にならない船内で細心の注意を払うのが、人の和づくりですね。部下

「海の記念日」に運輸大臣表彰を受けた

幸村 六郎さん (和納11区・53歳)

のコントロールが船長としての最大の責務ですから、正直いって荒れた日本海の方がわたしにとっては相手にしやすいですね」と船長の心構えを話す幸村さん。なにことも「信頼」という人間関係づくりが一番大切だという。「わたしもあと二年で定年を迎えますが、今回の受賞でこれからの二年間が、いままでの船員生活四十年に匹敵するほど長く感じられるのではないでしょうかと、最後に言ったこの言葉、勝つかぶとの緒を締めるのこわごとおり、おることなく、ますます真摯に対応する幸村さんの人柄を表わしているような気がします。タバコは吸わないが酒は大好きという。その飲みっぷりは日本海をも飲みほすほどか……。たまの休みには庭いじりで一日を過ごすという幸村さん。大臣表彰ほんとうにおめでとうございました。これからも安全航海でご活躍ください。



大臣表彰の前に喜びの幸村六郎さん